

よく使う部屋だけ工事、倒壊防げ！

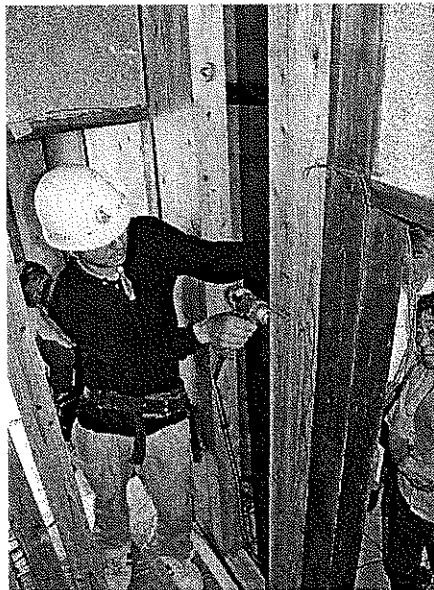
住宅の台所や寝室など頻繁に利用する部屋の壁をピンポイントで補強する耐震工法を、大阪府木材連合会と京都防災研究所が共同開発し、大阪市内で公開された。家屋全体を強化する従来の工法に比べ、コストも工期も大幅に抑えることが可能。発想の転換による新たな工法として注目されそうだ。

補強が必要な部屋の壁だけをいったん撤去し、壁の代わりに一辺10センチ前後の間伐材の柱を密着して立てることで耐

ローコスト耐震化

震性を強化する。間伐材同士をボルトで固定するため、開発時の実験では、補強した部屋は震度7の揺れでも倒壊しなかったという。

同連合会によると、家屋全体の耐震工事では、床から天井にかけて斜め方向の補強材を設ける場合、天井や床などを取り外す必要があり、費用は数百万円に上るケースもある。工期も数週間かかるため、一般住宅では耐震化が普及していないのが現状。新たな工法では、費用は数十万



耐震補強のため間伐材の柱が設置された壁。工費低減が期待される
—大阪市此花区 (小畑三秋撮影)

円、工期も数日間で済むという。兵庫県などによると、平成7年の阪神大震災では、犠牲者6434人の約7割が建物倒壊などが原因とされた。開
「家の損壊はやむを得ないという前提で、人のいる空間をいかに倒壊から守るかが重要」と話した。

発に携わった河田恵昭・京都大名誉教授(危機管理)は